

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	11 月	22 日	記入者	鶴田吉範
調査者名	饗庭	久門	鶴田		

文化財名	村屋坐彌富都比売神社(むらやにいますみふつひめじんじゃ)の社そう				
種類	<input type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input checked="" type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他()
指定年月日	1983年(昭和58)3月15日				
所在地	磯城郡田原本町蔵堂426番地				
所有者 管理者	村屋坐彌富都比売神社				
員数	—				
時代区分	—				
樹木の場合	(樹木名)	—		(樹齢)	—
案内板の状況	二の鳥居に向かって左に回り込んだ所に県教委設置の説明板あり。傷み汚れなし。				
公開	自由				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input checked="" type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足(竹の勢力が強くて社そうを侵食している。)				
当面の課題	竹の除去はNPO法人日本森林ボランティア協会にしてもらっているが竹の伐採のみで、竹を運搬し焼却するまでの人手がなく、社そうの中にかためて置いている状況になっている。				
今後の課題	イチイガシの樹勢を衰えさせる竹の除去が今後の一番の課題となっている。また、傾いた状態にあるイチイガシを切ることや、枝を払う事も県指定天然記念物であり簡単には出来ない。社そうを守るための費用と人手がをどう確保するかが今後の課題となる。				
その他 (由緒など)	河川による堆積作用により形成された沖積地に、環境に適合し安定した樹木の群集に到達した極盛相として発達するイチイガシ林が残存している。高木層のイチイガシを中心としたアラカシ、クロガネモチ等が生育した樹そうは、植物生態学上重要であり、環境保全上からも貴重な存在である。(県教育委員会案内板より)				
コメント	社そうは神社の回りを囲み広がっているが、竹の繁殖が拡大し県指定時から比べ樹勢が衰え行くのは残念。村屋神社は延喜式内大社で主神は三穗津姫命(大物主命の娘)、配神は大物主命で大神神社の別宮と称せられる。禰宜の守屋裕史氏は元デザイナーの腕を生かしてアマビエの御朱印やストラップを作られ、ネットで評判になり参拝者も増えたという。なお、文化財名は神社作成パンフレットの読み、漢字を記載した。県文化財指定一覧では、村屋坐彌富都比売神社(むらやにいますみやとみみやこひめじんじゃ)となっている。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2020 年	11 月	22 日	記入者	鶴田吉範
調査者名	饗庭	久門	鶴田		

文化財名	村屋坐彌富都比売神社(むらやにいますみふつひめじんじゃ)の社そう
------	----------------------------------

神社を覆う社そう	樹齢約400年のイチイガシ(禰宜守屋氏の説明)
----------	-------------------------



本殿近くまで成育する竹



台風により傾いたイチイガシ



社そうの説明板(県教育委員会設置)



村屋神社拝殿

